

令和 5 年度 ACTR

分類 番号	A9	取組 名称	京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法の開発
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 板井 章浩
研究担当者： 京都府立大学（板井章浩、森本拓也） 外部分担者（京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所 主任研究員 山口俊春氏、京都府立桂高等学校 宮脇潤氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府農林水産技術センター・農林センター・丹後農業研究所 京都府立桂高等学校			
【研究活動の要約】			
高台寺近くの民家の庭先で 100 年生に近いブドウ樹が発見され、このブドウは、京都において安土桃山時代から栽培の記録があり、昭和になって絶滅した‘聚楽’ブドウまたはその子孫である可能性がある。令和 4 年度までに聚楽は、非常に花振るい（生理落果）が多く見られ、着果の安定が課題となっていた。また生食用としては、種無し果実生産も重要な課題である。令和 5 年度、主として聚楽の種無し果実生産に取り組んだ。			
【研究活動の成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・自然受粉においてはこれまで同様、非常に花振るい（果粒の落果）が多くなった。 ・ジベレリンおよびサイトカイニン処理により、花振るいも抑え、単為結果させることが可能になり、これにより食べやすい種無し果実生産への道筋をつけることが出来た。 ・‘聚楽’を用いた新品種開発に取り組み、‘紫苑’X‘聚楽’の組み合わせで後代種子を得た。 ・京都府立桂高等学校の生徒の協力により、培養の条件検討を行い、70 株以上の無菌苗を得ることが出来た。 ・聚楽の別系統（五条坂系統）の可能性のあるブドウ樹の苗木 30 株を育成した。 			
【研究成果の還元】			
<p>1. R6.3.8 京都府立大学生命環境学部附属農場 市民約 25 名 「精華キャンパス ACTR 成果発表会」</p> <p>2. 「Characterization and phylogenetic analysis of the ancient Japanese grape variety ‘Juraku’」 国際園芸学会誌 Acta Horticulturae 1384 : 491-496 (2023) に掲載</p>			
【お問い合わせ先】			
生命環境科学研究科 資源植物学研究室 教授 板井 章浩 Tel: 0774-93-3253 E-mail: itai@kpu.ac.jp			

参考(イメージ図、活動写真等)

生育途中の様子



自然受粉

花ぶるい発生



植物ホルモン処理

殆どの果粒が成長

収穫時の様子

植物ホルモン処理区



自然受粉とGA処理区の果実の形質

	房重 (g)	粒重 (g)	粒数	糖度	pH	種子数
自然受粉	17.1	1.9	8	15.8	3.5	0.2
GA処理	151	2.1	64	14.3	3.3	0